



## 命を守る「早めの判断と行動」を！

梅雨前線の停滞で、高知県でも雨が降る日が続いています。「令和2年7月豪雨」と命名された今月3日からの豪雨では、九州や中部地方で長時間降り続き、大雨による河川の氾濫や土砂崩れで被害に遭った方がいます。同じ地域に何時間も大雨を降らせる「線上降水帯」は、この時期になると必ずといっていいほど聞く言葉となりました。

この十年来、「何十年に一度」と言われる豪雨による災害が、日本のどこかで起きています。県内では、3人が死亡した2年前の西日本豪雨が記憶に新しいところです。身の危険を感じるような雨が降り続くときは、『自分と大切な人の命を守る』ための早めの判断と行動ができてほしいです。

### 「自己分析」をしてみよう ～モラレス佳苗先生～

6月19日（金）、「自分の職業適性を知る」をテーマに、就職アドバイザーのモラレス佳苗先生を講師に招いて、進路実現に向けた「自己分析」について学びました。

はじめに、「自己分析で自分を知り（何が好き、何をしたいのか、何ができるのか、など）、そして職業を知る。今までの自分や今の自分を知ることが、『これからの自分』を知ることができる。」との説明がありました。

続いて、自分を知るための方法として、ワークシートに「書く」作業を行いました。ステップ1では、『自分が好きなことを15個書く』作業に挑戦しました。生徒は、「難しく考えずに、好きなこと、やりたいこと、得意なことなど、簡単なことから書いてみよう」とモラレス先生からアドバイスをもらいながら約10分自分と向き合い、思いついたことをワークシートに書きました。



生徒にアドバイスするモラレス先生

次に、ステップ2として、「好きなこと、やりたいことを掘り下げる」として、ステップ1で書いたことから3つ選び、『なぜ好きなのか？』理由を考えて書き進める作業を行いました。モラレス先生が「ゲームが好き」を例にあげて書き方を説明すると、生徒は各自が選んだ内容について、書き進めていきました。

今回は、「書く」という生徒にとっては苦手な作業が多い内容でした。生徒は戸惑いながら自分をどこまで表現していいのかわかりながらも、モラレス先生からの投げかけに応える形で作業を進めました。

最後に、「自己分析は未来へつながる進路選択の第一歩、ペンと紙があればできる、自分と向き合うきっかけ」と、自己分析を通して『自分とは何かを考えて、よりよい進路決定をしていきましょう』と締めくくりました。

## 仕事・企業を知ろう！～進路講話・モラレス先生～



説明するモラレス先生

7月3日の総合・LHでは、モラレス先生に再び講師をお願いして、～進路実現に向けて～「仕事・企業を知ろう」をテーマに、進路学習を行いました。

はじめに、自己分析して「自分を知る」ことで、「職業を知る」⇒「進路・職業を選ぶ」⇒「就職・進学に向けて活動」進路実現への流れを説明した後、今春の卒業生が就職した三昭紙業（株）や廣瀬製紙（株）をはじめ、土佐市と近隣自治体の11社について業務内容や有休休暇の取得率、若者への支援・研修体制など

日頃から企業との連携をとり情報収集しているモラレス先生だからこそ知る得る内容を紹介してくれました。卒業予定の3・4年次生は、メモを取りながら熱心に話を聞いていました。（写真右）

次に、『働き方のちがい』として、正社員と準社員の雇用期間や給料など条件の違いについて説明した後、『新卒採用のメリット』を紹介してくれました。

「新卒のチャンスは1回しかない、使わないのはもったいない、それはなぜか？」との問いかけに始まり、

①経験や資格等が無くても正社員で採用

②ゆっくり手厚い人材育成 ③生涯賃金のちがい ④社会的信用度のちがい

の4つを、具体例を挙げながら説明しました。そして、『高卒新卒採用で企業が求める人材』として、次の8つを紹介しました。

- 仕事への意欲、やる気
- まじめ
- 素直
- きちんとあいさつができる
- 休まない
- 体力がある、健康である
- 協調性（仲間と協力して取り組むことができる）
- 約束、提出期限を守れる

「企業は難しいことは求めていない、求められるものは当たり前のもの」とのモラレス先生の話、生徒は納得した表情で聞いていました。

最後に、「1,2年生は今から進路を考えておくとよい。」高卒“は最低限ないといけない資格、ハードルは高くない、気軽な気持ちで考えて欲しい。”との言葉で講話を締めくくりました。

